

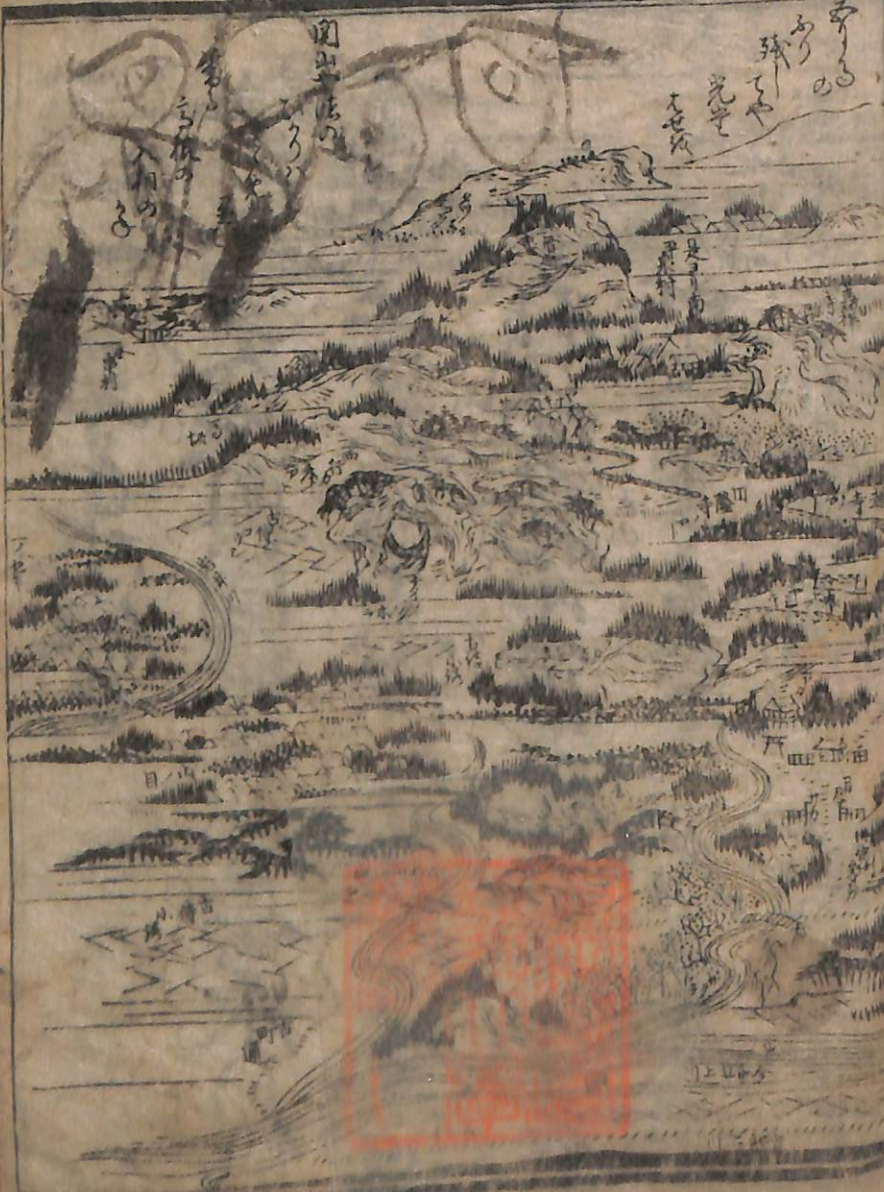
212

七

是平泉村

卷之所開

平泉關中山尊寺名所舊跡之圖









天保四年己酉八月十三日 記中之地村



最明寺時頼  
 里のいすの橋  
 川のたより  
 大田村の内  
 鬼首村の内  
 一帯の山  
 一帯の山

のきとさう昔園の歌たの老詩  
こゝろ

万波海乃より運ぬまふ中  
こゝろ

南老をまき河ま集の小流  
こゝろ

古事不飲かまふま集の松友  
こゝろ

秋名のもはゆは川の瀬を系  
こゝろ

の流りたよりより温る新の  
こゝろ

の橋共田新の歌とまむ原花  
こゝろ

黒雲を色蕉が其は藤のむま巻  
こゝろ

風をたよりより枕りと鬼まの  
こゝろ

山は所木枕塗たの存物か  
こゝろ

是も種世緒の死のなまの色  
こゝろ

花山は昔川の古城新田安流  
こゝろ



純徳政道



行幸の事古川刑部左衛門守亮  
 純徳の橋驛中世橋を為すの誠  
 仁者感ふ者内と著者居とて後  
 大崎飛騨中世田の地より後小  
 正氏大崎の始祖伊賀守家重  
 寛元三年八月に菅原俊大崎に遷す

○徳政の始

在来を道新

- みちのれ徳純乃
- ちやんかん
- 兄弟
- 赤海
- 藤原の巻坂
- 村天
- 小町
- 古川
- 里
- 年
- 治
- 集

之清の末代尚と名する徳純  
 中世の事  
 此下  
 先夫  
 聖美  
 政尚

西月八日  
 九月八日



王...  
 小...  
 降...  
 大...  
 記...  
 小...



王...  
 中...  
 業...  
 志...  
 志...  
 春...

二月九日  
 九月九日  
 德...  
 の...  
 志...  
 月...  
 唯...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...

時任  
 職  
 遠  
 村  
 中













公帳換の池九条の親の苗上  
 淡菊孝吉を以て其跡を以て  
 折平泉の奥の國の太守若  
 法守府將軍者原其備居  
 版の心は維御所估小治の郭石  
 有る本居の版の國備將軍者備

日礼物

梅森社 芳野の  
内と名

日光院

日友お梅 大木林

神のまゝ 天を

境板 号を

名を大木(一)

枚林のまゝ

刃を元流

姉の女のまゝ

おのりたつて

と山の日の人

の板をわて

ひは板のま

○達谷の巻

河上織

裏をま 聖事文 刻流毛 越寺  
 跡を光 塔寺 字 字 坊 宗 余 行  
 道と公 合 院 の 跡 の 者 在 園 境 石  
 春 徳 の 建 立 事 業 の 末 亦 業 跡 乃  
 十 二 年 乃 末 官 乃 佛 寺 乃 乃 乃 乃  
 實 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃









出づる我に松松梢茂てあま  
 歌も芳き徳は白嶽は心雲帯  
 天の青き雲の雲海風来  
 他も去柳御所も花は流花雲  
 花雲の程のはるかにの生雲雲  
 柳川の上よと古ぬ柳の柳雲川

〇無慶松  
 久うぬねの  
 民防 ます  
 〇秋の里  
 雲をてぬの  
 ひとよ  
 あり  
 〇秋の里  
 あり  
 〇秋の里  
 あり  
 〇秋の里  
 あり

其のそとに三つはの跡は星名天  
 〇秋の里の標はよる来神川  
 流合雲の法時の秋は新川  
 よる来神川の標は流花雲  
 〇秋の里の標は流花雲  
 〇秋の里の標は流花雲  
 〇秋の里の標は流花雲



衣川

拾遺 山名也  
後より藤

みらの丸  
衣川

みらの丸



衣川山名也  
後より藤

美奈山名也  
後より藤

寺所跡  
後より藤

松原松原  
後より藤

早洞作  
後より藤

赤木亀井の松  
後より藤

詞元

中之

白木

赤木

赤木

赤木

赤木

橋

赤木

赤木

赤木

赤木

赤木

赤木

赤木

赤木

赤木

赤木

赤木





みら  
のけ  
西の山  
の木の  
林  
君  
ま  
人

仁明帝の御宇  
天保二年  
年意

美作の羅素王  
延和二年  
年意

夜見清浄奉御  
天保二年  
年意

東劍の古  
天保二年  
年意

さるの  
天保二年  
年意

あまの川の  
天保二年  
年意

あまの川  
天保二年  
年意

あまの川  
天保二年  
年意

あまの川  
天保二年  
年意

あまの川  
天保二年  
年意

あまの川  
天保二年  
年意

あまの川  
天保二年  
年意

中  
東  
二  
三

古  
古  
古

古  
古  
古

古  
古  
古

古  
古  
古







貞と云地名も  
 又さうと大時林と  
 て毎年正月三日の  
 集落のふりこ  
 其功の又年次  
 此奴と云地可  
 今大清の清和源  
 氏の流しと義純  
 の子孫ありと云報  
 夫可流しと云  
 今も流し  
 秀州美令の翁  
 とつうの埋草と  
 と云いこの民家  
 龍洞と稱ふと声  
 と合とれいふと



平泉幸文子  
 濱より書海  
 錦戸信友  
 〇長明寺在安  
 〇勅使居安  
 〇安次

昔の平の集落は統正の跡と云  
 り只此平の集落の付と云目  
 のおし子と云るの生かたと嘉元  
 長年所久安早と我統正の  
 麻風子破壊して七突の柱何  
 然朽て脱類康と云りしと所然

百廿余年の後には山鹿元年鎌  
 倉將軍惟康親王の命にうて平  
 久野守尉後平と云道三楚のに  
 西と圍て凡あて慶う人今も  
 此に權のふと云武業と云運慶乃  
 比老濁の者若老と云折安と云









四祿のたか庚戌とて今儀まの  
 僧院十雨合運の事と書し付置  
 のまほさる者と言余寺とて  
 そのかききうをいひしきいふ  
 たり其跡もとにむ言葉義  
 俗神約獄と云稱出長と云  
 け若安倍村の稲万樹種と云

○國乃山記名 おののくに  
 仁明帝嘉祥三年 けいめいていけいしやうさん  
 嘉元六年 かげんねん  
 同作十一面の像あり  
 佐古の金輪の項岳  
 ちくくをきく國見山  
 極楽寺と号す  
 ○溪心 いせしん  
 〇社跡あり ちやせうあり  
 〇向ま男岡山。女也と  
 〇のあり  
 〇序風昆出 しゆふうこんしゅつ  
 〇内申の六月 うちしんのかつご  
 〇のあり のあり  
 〇正法寺 しやうぽうじ  
 〇のあり のあり

〇河乃山記名 かみのやま  
 〇社跡あり ちやせうあり  
 〇向ま男岡山。女也と  
 〇のあり  
 〇序風昆出 しゆふうこんしゅつ  
 〇内申の六月 うちしんのかつご  
 〇のあり のあり  
 〇正法寺 しやうぽうじ  
 〇のあり のあり







星

星

健

三

郎

漢  
嘉  
茂  
院